

1

若者の意識

Z世代の若者の9割が社会課題に関心
寄せる——連合のインターネット調査

Z世代と呼ばれる若者の約9割が社会課題に関心があることが、連合（芳野友子会長）が3月3日に発表したインターネット調査の結果から明らかになった。社会運動に参加したことがある割合は36.7%。どのような社会運動であれば参加できるか聞くと、顔や名前を出さないこと、との回答が最も多く、社会運動に期待することとしては、「運動の成果を感じられること」がトップにあがった。

Z世代でも若い層ほど関心が高い

Z世代は、おおむね1990年代後半から2000年代に生まれた世代と定義されている。調査では、すでに社会人となっている世代も含めた15歳～29歳を対象とした。調査方式は、インターネット調査で、2021年12月21日～23日に実施。インターネットモニター会員の全国のZ世代の男女、1,500サンプル（男女それぞれ750）から有効回答を得た。

Z世代である若者がどのような社会課題に関心を持ち、どのような社会運動を望んでいるのかを探るため、関心のある社会課題があるか聞いたところ、87.0%が「ある」と回答し、大半が社会課題に関心がある姿勢を示した（「ない」が13.0%）（図1）。

年齢層別に「ある」と回答した割合をみると、「15歳～19歳」が92.2%、「20歳～24歳」が86.8%、「25歳～29歳」が82.0%で、Z世代のなかでも若い層ほど関心がある割合が高くなっている。

関心が高い社会課題の分野は
経済・社会や教育など

どのような分野の社会課題に関心を持っているのか、回答割合が高い順にみると（複数回答）、「経済・社会」40.6%、「教育」および「人権」37.3%、「ジェンダー平等」34.7%、「労働」33.7%、「健康」31.3%、「環境」20.5%、「平和」17.8%などとなっている。

さらに、関心のある社会課題を分野ごとにみると（5つまで回答）、「【経済・社会】では「医療・社会保障（年金問題含む）」が15.1%で最も高く、【教育】では「いじめ」(20.7%)、【人権】では「自殺問題」(16.7%)、【ジェンダー平等】では「ジェンダーにもとづく差別」(16.3%)、【労働】では「長時間労働（ワーク・ライフ・バランス）」(18.7%)、【健康】では「高齢化問題（介護問題含む）」(13.2%)、【環境】では「エネルギー資源（再生可能エネルギーの活用含む）」(7.3%)、【平和】では「戦争・紛争・テロ」(9.9%)がそれぞれ最も高かった。

男女別にみると、男性で全ての分野

のなかで最も回答割合が高かったのは「長時間労働（ワーク・ライフ・バランス）」(19.1%)で、女性では「ジェンダーにもとづく差別」(23.6%)が最も高かった。

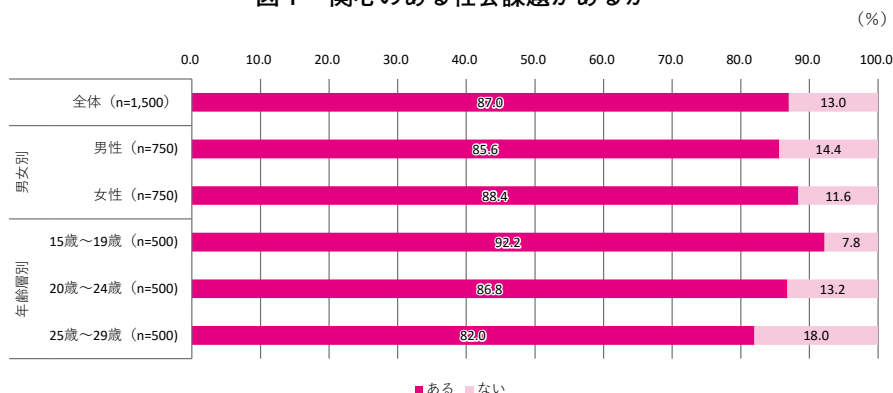
関心をもった理由のトップは
「社会・環境をよくしたい」

社会課題に関心がある人に対し、関心を持った理由を聞くと（複数回答）、「身近にこの問題に直面したから」が41.2%で最も回答割合が高く、次いで「社会・環境をよりよくしたいから」(34.9%)、「人の生命にかかわる問題だから」(32.1%)、「困っている人がいるなら助けたいから」(31.4%)、「自分のくらしを守ることになるから」(27.6%)などと続いた。

「身近にこの問題に直面したから」と回答した人に絞って、関心のある社会課題の回答割合をみると、「奨学金問題（学費高騰問題含む）」が54.0%と5割を超え、「不登校」が41.2%で次いで高かった。

社会課題に関心がある人に、関心を持ったきっかけを聞くと（複数回答）、「テレビで見た」が55.1%で最も回

図1 関心のある社会課題があるか



答割合が高く、「学校の授業で見た」(40.6%)、「ネット記事を見た」(38.0%)、「SNSで見た」(35.0%)、「自分が課題に直面した」(33.3%)などと続いた。

集会やデモなどに参加したことがある割合は14.7%

社会課題を解決するために、社会運動に参加したことがあるか聞くと、「ある」が36.8%、「ない」が63.2%で、4割弱の人に参加経験があった。男女別にみると、「ある」割合は男性が41.9%、女性が31.7%で、男性が約10ポイント上回っている。

参加したことがある社会運動を聞くと(複数回答)、「知識を深めるためのセミナー」(25.4%)が最も回答割合が高く、次いで「SNSでの個人の発信」(23.2%)、「オンライン署名」および「クラウドファンディングや募金などの資金提供」(ともに18.7%)などの順で高い。労働組合が比較的多く行う「集会やデモ、マーチ、パレードなど」は14.7%で、「政府や団体、企業への要請」は13.6%となっている。

社会運動に参加したことがある人に、参加した理由を聞くと(複数回答)、「自分ができることをしたかったから」が27.9%で最も高く、「自分の気持ちを表現したかったから」(19.7%)、「友人・知人・家族に誘われたから」(15.0%)、「顔や名前を出さずに参加できたから」(14.9%)、「暇だった・時間があったから」(13.0%)などと続いた(図2)。

一方、参加したことがない人に理由を尋ねると(複数回答)、「顔や名前が出てしまうことに抵抗があるから」(22.2%)がトップに上がり、次いで「参加するには自身に知識が足りないと思うから」(21.6%)、「忙しかっ

たから」(18.0%)、「運動自体に怖い、過激などのイメージがあるから」(17.6%)などの順で高かった。

期待するのは「成果を感じられる」こと

全回答者に、どのような社会運動であれば参加できるか聞くと(3つまで回答)、最も多かった回答は「顔や名前を出さずに参加できる」で27.4%。これに、「気軽に参加できる」(25.8%)、「参加したいときだけ参加すればいい」(15.9%)などが続く。

これからの社会運動にどのようなことを期待するか聞くと(3つまで回答)、「運動の成果を感じられる」(27.7%)が最も回答割合が高く、次いで「課題が分かりやすい」(26.0%)、「人とのつながりを感じられる」(22.5%)、「全体の一体感がある」(17.6%)、「参加して楽しい」および「自身のキャリア

形成につながる」(ともに14.3%)などの順で高かった(図3)。

女性の半数以上が参加したくない運動に集会やデモをあげる

一方、社会運動として、参加したくないものを聞くと(複数回答)、「集会やデモ、マーチ、パレードなど」が46.8%と目立って高い。

男女別にみると、女性で「集会やデモ、マーチ、パレードなど」をあげた人は55.5%と半数以上にのぼった(男性は38.1%)。

社会課題に関心のある人に、関心のある社会課題を解決するために参加したい社会運動を聞くと(複数回答)、「政府や団体、企業への要請」(37.1%)が最も高く、次いで「知識を深めるためのセミナー」(33.0%)、「SNSでの個人の発信」(31.2%)などと続いた。(調査部)

図2 社会課題を解決するための社会運動に参加した理由(複数回答形式)
対象：社会課題を解決するための社会運動に参加したことがある人

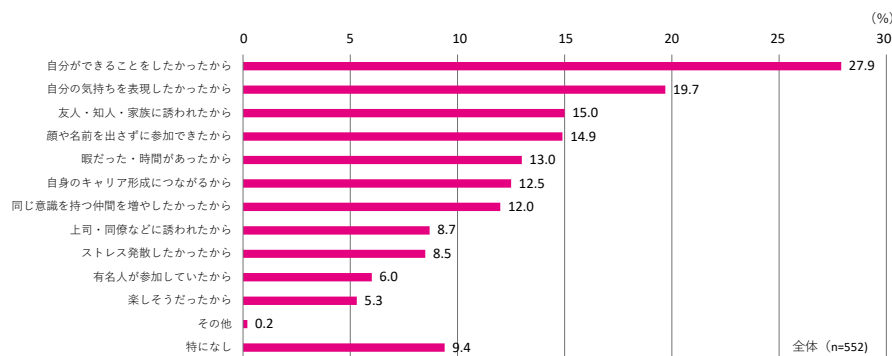


図3 これからの社会運動に期待すること [制限回答形式 (3つまで)]

